



HEADLINES

会計検査院が照準

小規模宅地特例の
`抜け道`、封じ **12**

パズルのキーを探し出せ! 上田二郎

実録トクチョウ班 **3**

元銀行員が伝授 武田美都子

金融機関は決算書のココを見る **6**

税理士に聞いてみよう! 木村聡子

どうなる? 改正・配偶者控除 **5**

元国税記者が綴る税金事件帖 田中周紀

銀座ママ`つまみ`、脱税事件⑦ **11**

税制改正議論大詰め 高橋洋一

所得税改革は若者世代への配慮 **4**

教えて、先生! 毛利修平

これは雑損控除の対象ですか? **9**

4つの制度を徹底比較!

NISAとiDeCo
強みと弱み



▲制度によって投資する対象も違えば課税の仕組みも異なる

投資で得た利益を長期間にわたって非課税にする「つみたてNISA(ニーサ)」が来年1月にスタートする。通常の「NISA」、未成年を対象にした「ジュニアNISA」に続き、これでNISAは3つ目だ。さらに制度としては異なるが、投資に税優遇を設けて資産形成を助けるという意味では「iDeCo(イデコ)」もある。各制度はいったい何が違うのか、資産形成のためにはどの制度が適しているのか。この際、一挙にまとめて比較して、自分に一番合った制度を見つけよう。

つみたてNISAが

手数料が安い

つみたてNISA

金融庁は11月22日、来年1月にスタートする「つみたてNISA」の商品のラインナップを更新し、計124本となったことを発表した。今年春の時点では金融、証券各社から出された商品は50本程度と低調だったが、森信親金融庁長官が業界に喝を入れたこともあって夏以降は順調に増え、様々な債券や株式などを組み合わせた金融商品が並ぶこととなった。

つみたてNISAでは、通常のNISAと同様に、投資で得た利益にかかる税金がすべて非課税となる。非課税対象となる投資期間が通常のNISAの4倍となる20年にまで伸びたのが大きな特徴だ。通常型に比べて1年当たりの投資上限額は減ったものの、投資できるトータルではつみたてNISAが上だ。短期間では多額の儲けが狙えなくても、20年あれば、大化けすることもあり、毎年少しずつ投資して、長い目で資産形成を狙いたいという人に合った制度となっている。注意点は、上場株式の個別銘柄が買えないことがある。通常のNISAやジュニアNISAとの大きな違いで、つみたてNISAでは、前述したように証券会社や金融機関などが用意した限られたラインナップからしか投資対象を選

	つみたてNISA	NISA	ジュニアNISA	iDeCo
対象年齢	20歳以上	20歳以上	19歳以下	20歳以上60歳未満
期間	最大20年	最大5年	最大5年	最大40年
投資上限(年間)	40万円	120万円	80万円	14.4万円~81.6万円
投資上限(総額)	800万円	600万円	400万円	576万円~3264万円
おもな投資対象	投資信託・ETF	投資信託・ETF 上場株式	投資信託・ETF 上場株式	投資信託 預金・保険

べない。もともと、限られているとはいえ多くの商品は手数料が無料で、一般の投資信託に比べるとコストをかなり抑えられるようになってきている。手数料が低いということは、それだけ利益を出せる可能性が増えるということを意味するわけで、手数料の低さはつみたてNISAの大きな長所と言えるだろう。

17年度改正で「青天井」に

もう少し、短期間に大きく投資をやりたいという人であれば、通常のNISA

税制改正